

4 道民の意識とニーズ

①大学生に対するアンケート調査

道では、若者の結婚等への意識等を把握するため、平成18年度から20年度に、大学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

その結果、多くの大学生は結婚して働きながら子育てをしていきたいと考えていることなどがわかりました。

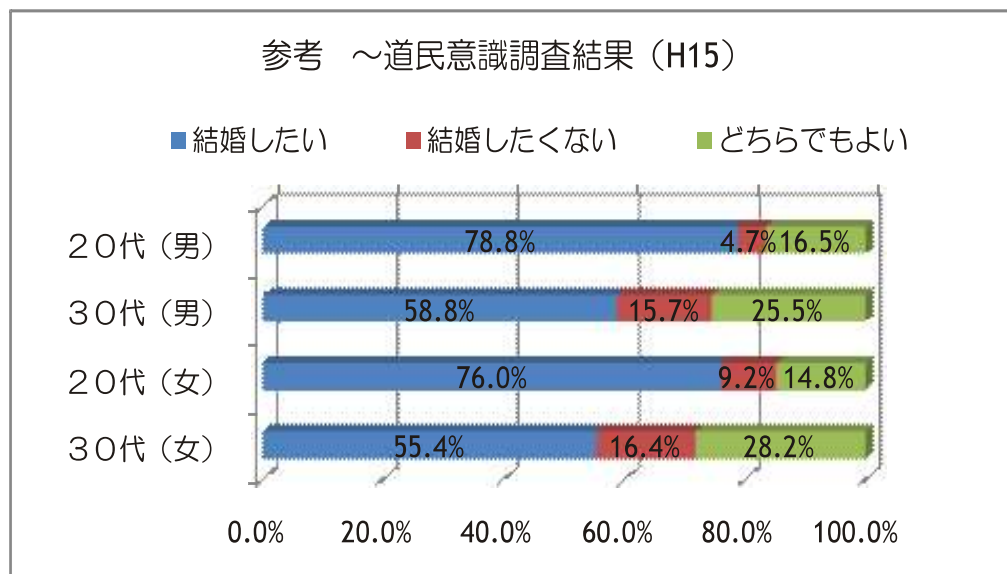
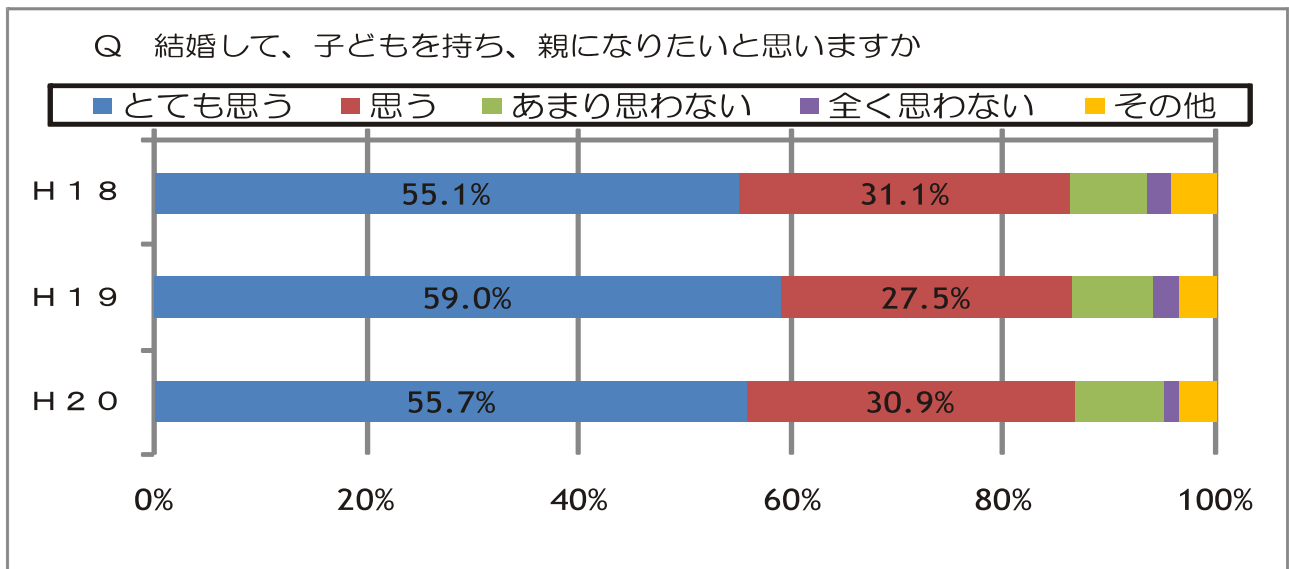
調査結果の概要等は次のとおりとなっています。

〔大学生に対するアンケート調査（H18～20）〕

■結婚等への意識

結婚して、子どもを持ち、親になりたいと考えている大学生は各年度とも85%を超えています。

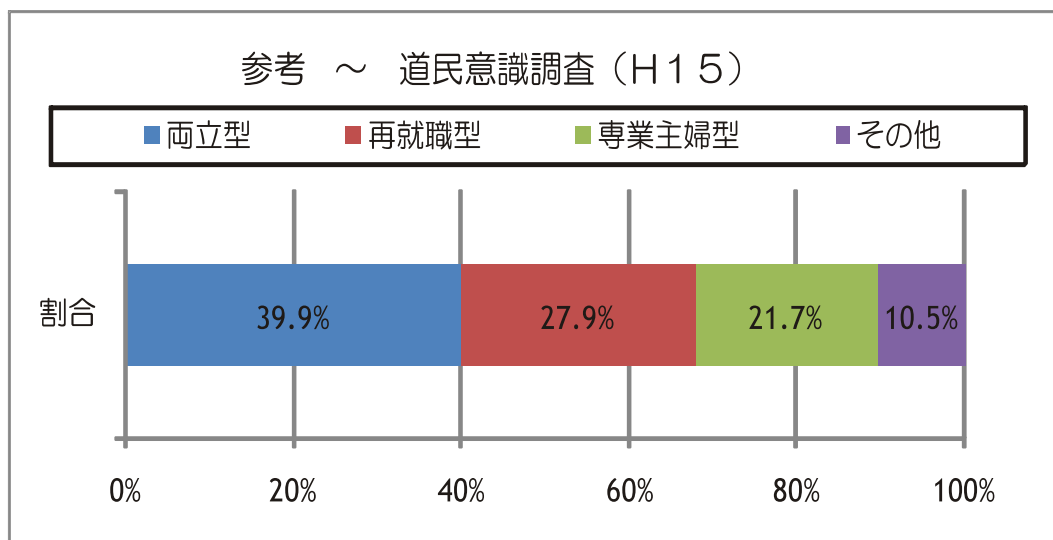
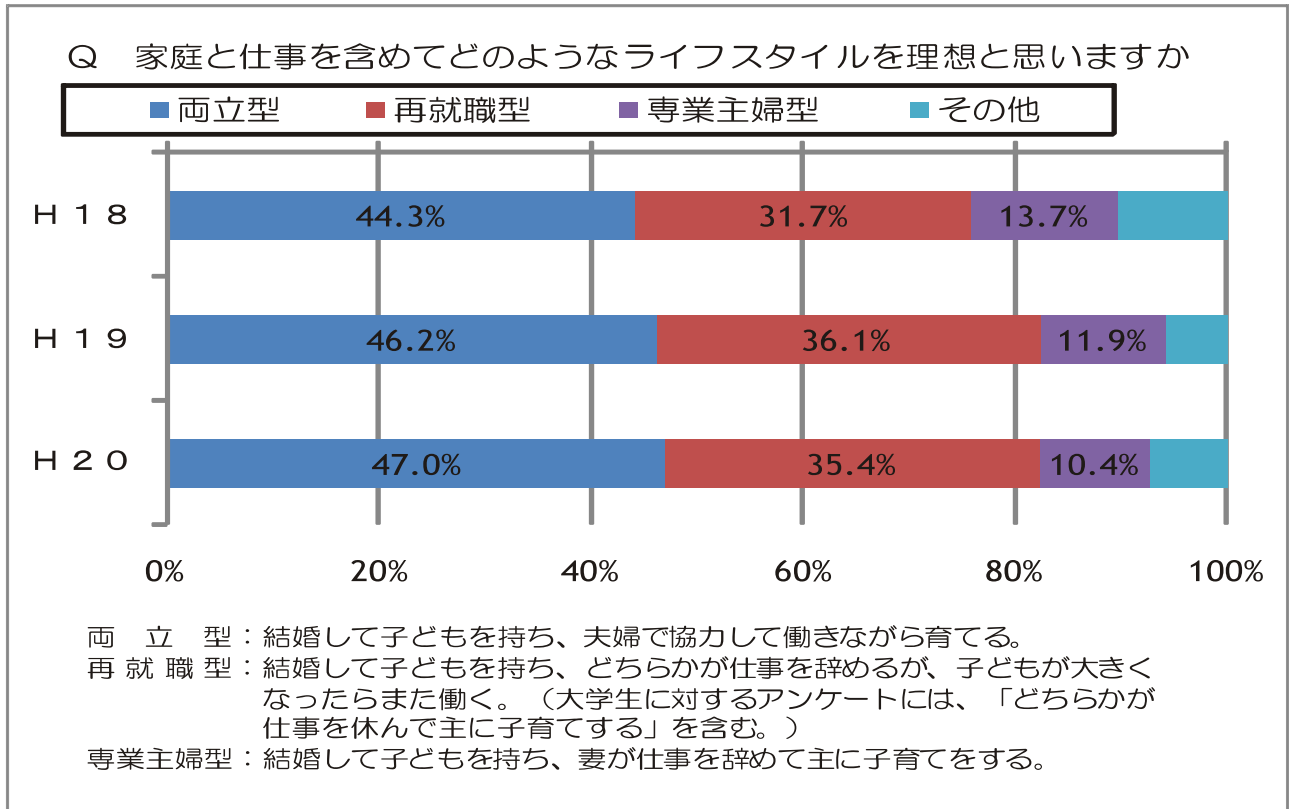
【図表8：結婚等への意欲（大学生、20代及び30代未婚者）】



■理想のライフスタイル

仕事と家庭の両立型及び再就職型が増加し、専業主婦型が減少傾向にあります。
働きながら子育てをすることを望む人が増加しており、仕事と家庭の両立の考え方の浸透が伺えます。

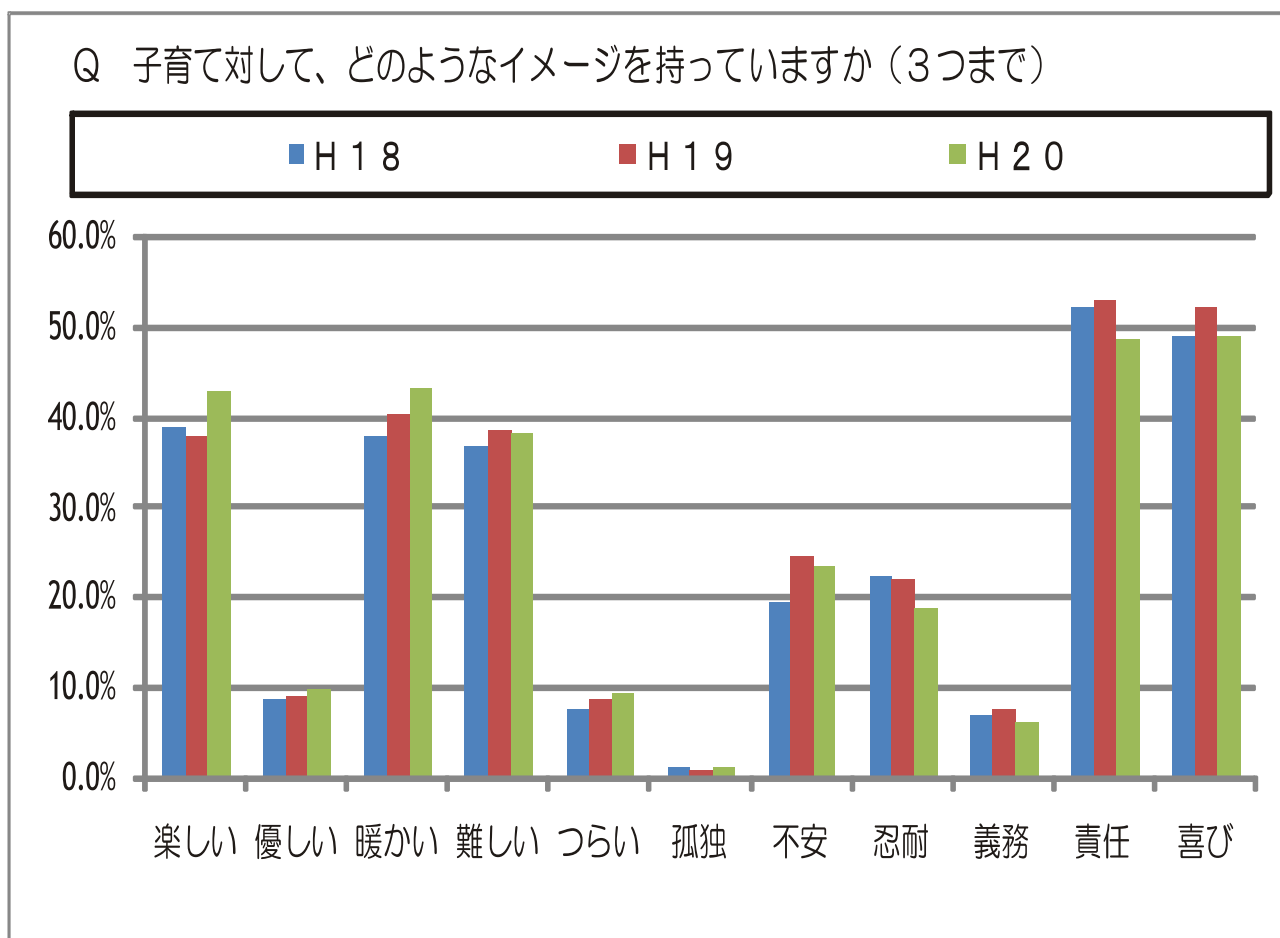
【図表9：理想のライフスタイル】



■子育てに対するイメージ（複数回答）

各年度ともに同様の結果となっており、プラスのイメージである「喜び」が50%前後、「楽しい」、「暖かい」が40%前後と高くなっている一方、「責任」が50%前後、「難しい」が30%、「不安」、「忍耐」が20%を超えており、マイナスのイメージもあり、「子育て」には心理的な負担を伴うと意識していると考えられます。

【図表10：子育てに対するイメージ】



②道民意識調査

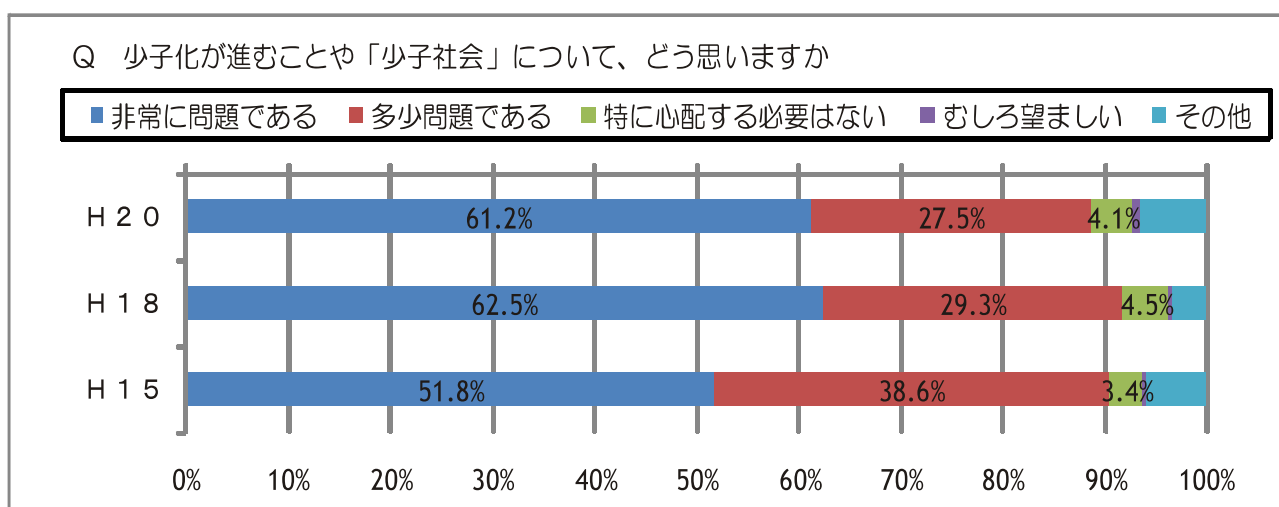
平成18年度及び20年度に、少子化社会や子育てについての意識やニーズに関する道民意識調査を実施しました。調査結果及び平成15年度の調査結果と比較した状況については、次のとおりとなっています。

〔少子化に関する道民意識調査（H15・18・20）〕

■少子化についての問題意識

少子化が進むことや少子化社会について、「非常に（多少）問題である」と考える人は9割前後の高い水準で推移していますが、約1割の人が「特に心配する必要はない」、「むしろ望ましい」と回答しています。

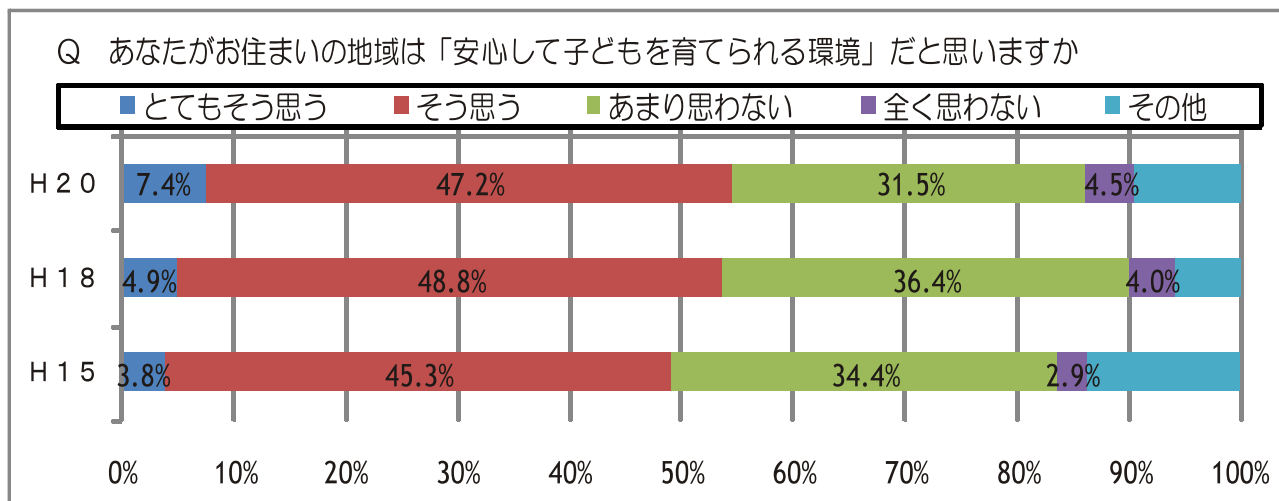
【図表11：少子化についての問題意識】



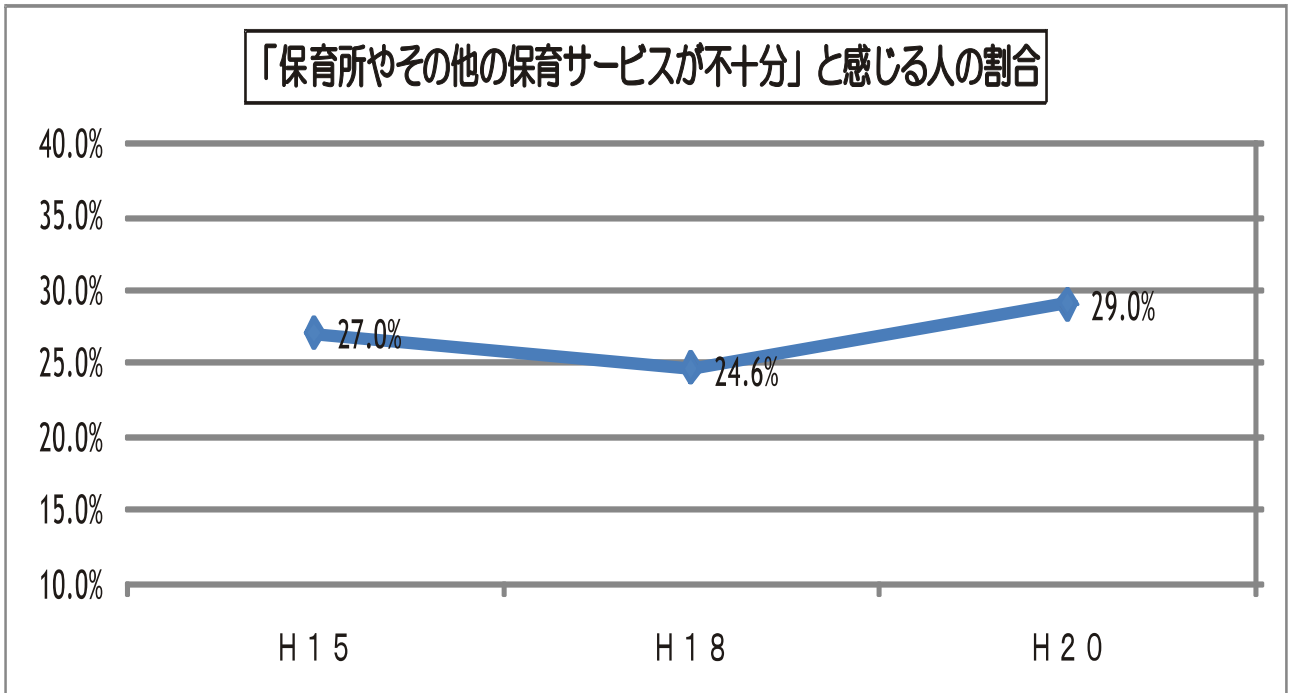
■地域における子育て支援体制等

「安心して子どもを育てられる環境」だと思える人の割合は、「とてもそう思う」、「そう思う」を併せて約5割であり、平成15年度と比較すると増加しています。しかしながら、「保育所や保育サービスが不十分」と感じている人の割合も増えており、地域における子育て支援体制は十分とは言えません。

【図表12：「安心して子どもを育てられる環境」だと思える人】



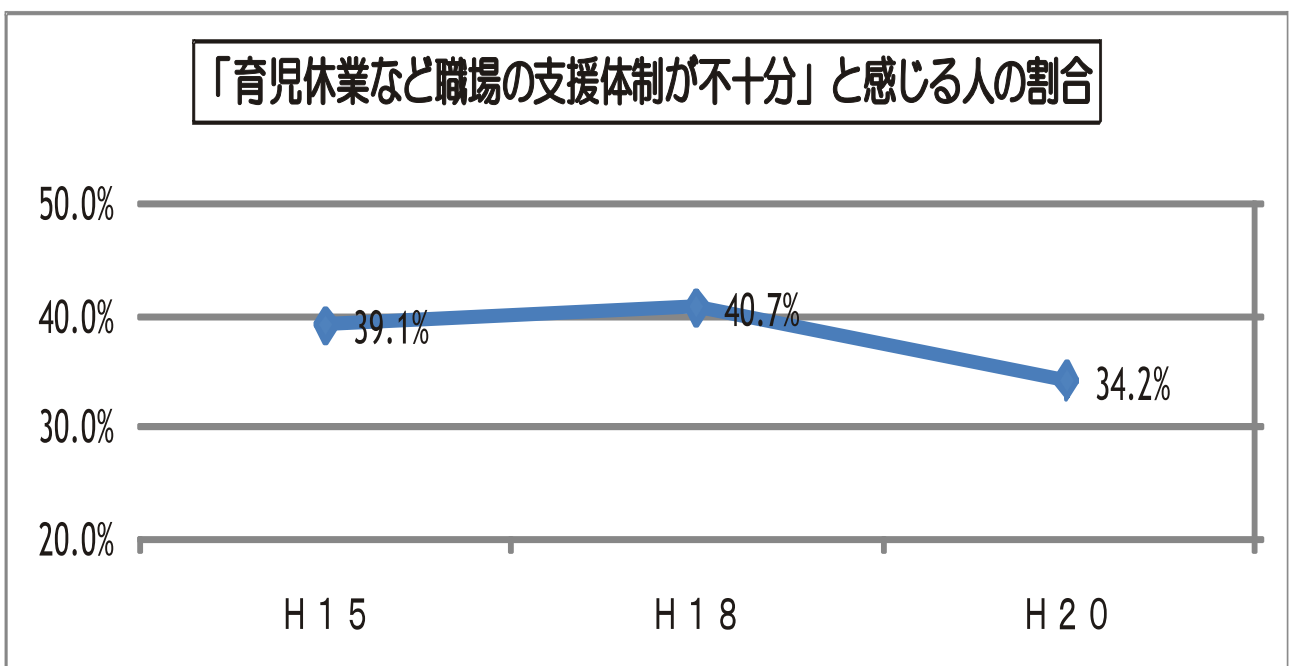
【図表13：保育所や保育サービスが不十分と感じる人】



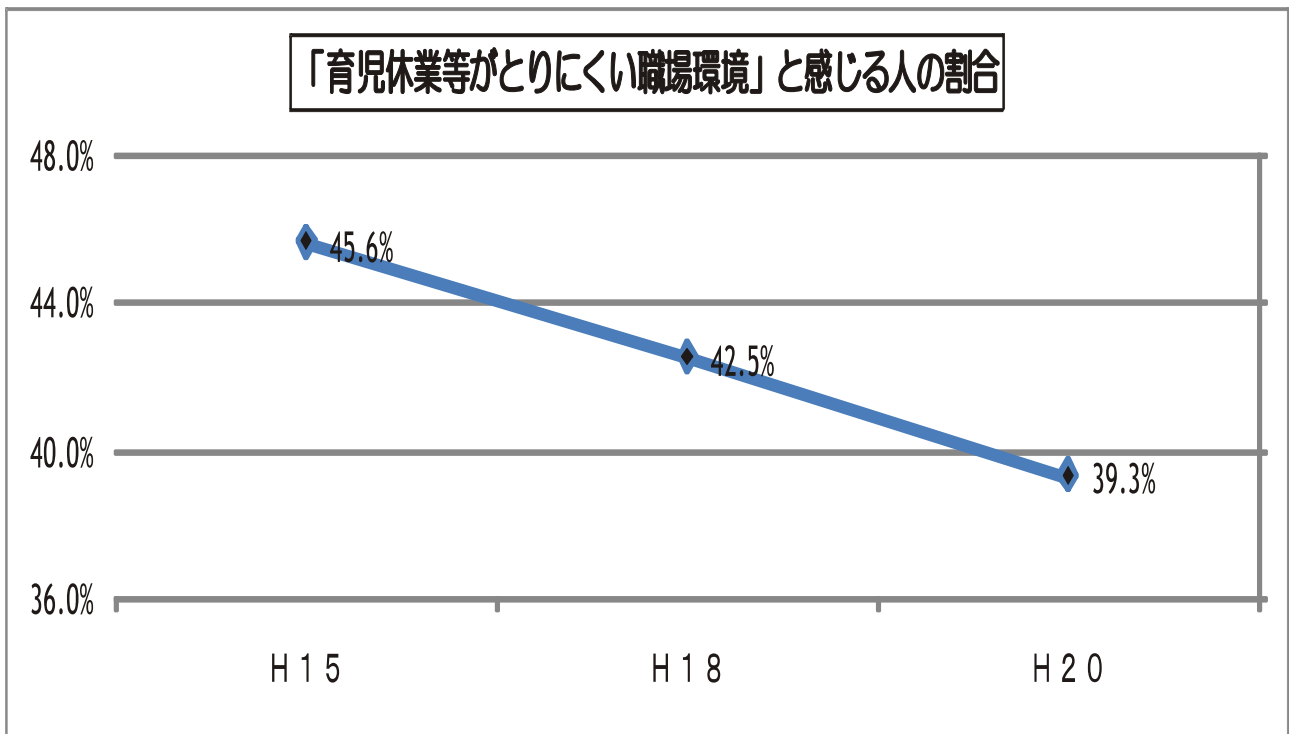
■雇用環境

仕事と家庭の両立のために、職場の支援体制や職場環境が不十分と感じる人の割合は減少傾向にあり、両立のための育児休業制度の普及率が低いなど雇用環境の整備は全国に比べ遅れているものの、徐々にではありますが改善されてきていると考えられます。

【図表14：育児休業など職場の支援体制が不十分】



【図表15：育児休業等がとりにくい職場環境】



■子どもの健康への不安

「子どもの健康に心配や不安がある」と感じる人の割合が男女ともに増加しています。また、男性は7割近くまで急増し、子育てに参加する男性が増加しているものと考えられます。

【図表16：子どもの健康に心配や不安がある人】

